

第 39 回(令和 5 年度 第 1 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 5 年 7 月 3 日 (月) 14:00～
- 場 所 黒部市役所 202・203 会議室
- 出席者 協議会委員 18 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	武隈 義一	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	本人出席	
		黒部市タクシー協会 会長	神谷 尚機	神谷慶志郎	
		あいの風とやま鉄道株式会 社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所 長	川口 歳則	所長代理 岩井光彦	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	藤井 敏雅	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	大上戸 久雄	本人出席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協議会 会長	田村 豊嗣	欠席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会 会長	此川 昇	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会 会長	辻 順子	副会長 村田洋子	
		公募委員	下石典江	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環境学科教授	原田 昇	欠席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	玉巻 史成	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	大田 尊博	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	景山 隼人	本人出席	
		富山県交通政策局交通戦略企画課長	有田 翔伍	本人出席	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事		川端 康夫	事務局長 坂井英次		
YKK株式会社 副社長 黒部事業所長		浅野 慎一	本人出席		
富山県交通運輸産業労働組合協議会 議長	石橋 剛	本人出席			
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席			

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：山本部長、川見課長、山崎班長、中係長、田村主任、井田技師
(株)新日本コンサルタント：植原、馬場、寺田

会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ（会長 武隈黒部市長）
- 3 報告事項
 - (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
 - (2) 役員の交代等について・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2
 - (3) 令和 4 年度の市内公共交通利用者数について・・・・・・・・資料 3
 - (4) 市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について・・・・・・・・資料 4
 - (5) 暮らしのサポート便実証運行事業について・・・・・・・・資料 5
 - (6) 黒部市地域公共交通計画への移行スケジュールについて・・・・・・・・資料 6
- 4 議案
 - 議案第 1 号 令和 4 年度収支決算について（監査報告）・・・・資料 7
 - 議案第 2 号 令和 5 年度収支予算（案）について・・・・・・・・資料 8
 - 議案第 3 号 黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について・・・・資料 9
- 5 その他
- 6 閉 会

開会

- 定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。
- 進行：川見課長

あいさつ（武隈市長）

- 会長よりあいさつを行った。

本日は、第 39 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員の皆様におかれ
ては、ご多用の中、ご出席いただき感謝を申し上げます。また、日頃より本市の公共交通施策
にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が 5 類へと変更され、社会経済活動も徐々に正常化して
いると考えられる。今年のゴールデンウィーク期間中の北陸新幹線の利用者数は 298,000 人
とコロナ禍前に近い水準まで回復したと聞いている。市内の公共交通利用者数についても回
復傾向がみられるもののコロナ前と比較すると、まだまだ厳しい状況が続いており、本市と
しても引き続き各事業者のご尽力、公共交通の利用回復に向けた市民活動等に対し、積極的
に協力してまいりたいと考えている。

また、先月の市議会 6 月定例会において、よりきめ細かな公共交通計画の展開という観点
から、最寄りの駅やバス停までの移動手段の確保、中心市街地内での移動のあり方、デマン
ド交通の充実等に関するご質問、ご意見をいただき、これらについては今後、他の市町村の

事例を参考にしながら、さまざまな仕組みを検討していきたいと考えている。

最後に、本日の会議内容は、令和 4 年度公共交通利用者数など報告事項が 6 件、令和 4 年度収支決算、令和 5 年度予算案などの議案が 3 件である。議員の皆様におかれては忌憚のないご意見を賜りたく思う。

報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 役員の交代等について
- (3) 令和 4 年度の市内公共交通利用者数について
- (4) 市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について
- (5) 暮らしのサポート便実証運行事業について
- (6) 黒部市地域公共交通計画への移行スケジュールについて

●事務局より、資料 1、2 に基づき、経過報告及び役員の交代に関する報告を行った。

○川端座長

下石委員におかれましては、この度、本協議会の公募委員に応募いただき感謝申し上げます。地域公共交通の利用者としての立場で御意見をいただければと思う。

●事務局より、資料 3～6 に基づき、「令和 4 年度の市内公共交通利用者数」、「市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新」、「暮らしのサポート便実証運行事業」、「黒部市地域公共交通計画への移行スケジュール」について説明を行った。

○此川委員

資料 5 「暮らしのサポート便実証運行事業」を 7 月から来年 3 月までの期間に実証実験するということがだが、実験を行うのが遅い。免許を返納する高齢者が増加している昨今、高齢者を優先的に考慮した対策・対応をもう少し早く取り組むべきである。今後の対応について、具体的に教えていただきたい。

○事務局

資料 5 「暮らしのサポート便実証運行事業」は、路線バス、デマンドタクシーが運行していない地域の公共交通ニーズを把握することを考えている。そこで需要を確認できれば、具体化に向けた検討も視野に入れる必要が出てくるだろう。運行事業の始動を早くしてほしいという指摘については、従来、内山、音沢地区が鉄道沿線であったため動きが遅かったが、今回実証運行を開始させていただくこととなった。

○此川委員

実証運行については公民館などのネットワークに呼びかけるということだが、自治振興会に呼びかけ、高齢者への対応をスムーズにできる体制がとれるようお願いしたい。公民館では意味がないため、自治振興会との連携が必要である。

○事務局

実証運行については公民館にチラシを配布するだけではなく、あらかじめ昨年度から地区とは話を進めてきている。また、先月自治振興会にも報告している。7月に内山や音沢の住民には戸別にチラシを配布することとしている。

○此川委員

この件については市の老人クラブからの意見が上がっている為、対応をお願いしたい。

○事務局

引き続き対応する。

○下石委員

5年半前に移住しカフェを運営している。その中で皆さんとどのように公共交通をどうしたらよいか話している。50ccバイク免許しか持っておらず、こちらでは雨の日が多いため免許を返納したが、近所の人は返納による特典を知らない。あいの風、地鉄の両方で割引があることが知られていないし、公共交通の割引があるということを市役所でも説明がないなど、使えるシステムがあるのに知られていないことが問題であるので改善してほしい。また、夫婦の一方しか免許を持っていない場合は、返納した人には特典があっても、元々免許を持っていなかった人には特典がないことから、夫婦で外出する場合の費用が大きな負担となる。周知に関しては、年度初めに町内会などでのアナウンスを徹底するなど広報での周知方法を工夫してほしい。他方、友達と出かける際も定期券の所有の有無で交通費が違うため気軽に誘えない。家族割などのことも考えてほしい。イギリスでは往復の割引率が高く、家族で利用すると割引率がさらに上がる。これは家族の外出に伴う消費効果も考慮した仕組みであると考えている。

次に、地鉄とあいの風の両方を利用するが、接続が悪い。黒部駅は電鉄黒部駅からの距離があり過ぎるし、滑川駅は4分しか乗り換え時間がなく、さらに魚津駅での乗換え時間は1分しかない。そのような状況の中で出歩けと言われても無理がかなりあると思う。特に新富山口駅の開業以降に不条理なダイヤになっているのもう少し考えていただけないか。

○事務局

免許返納に関する特典については、周知が不足している。1度周知したら終わりということではなく繰り返し周知していく形としていきたい。

家族割で市外に行きたいとの要望については、事務局でも認識している。市単独で実施することは難しいため、広域的な関係者と話を進めていく必要があると考えている。

地鉄とあいの風とのダイヤの接続が悪く、乗換え等も大変であるという指摘については市から事業者に対して改善の要望をしていきたいと思う。

○浅野委員

資料の P.22 に1日当たりの平均利用者数の記載があるが、1便当たりどれだけ乗れば採算が取れるのかということも含めてしっかり検討していただきたい。YKKが運営している

バスも日中はほとんど誰も乗っておらず、減便も検討したが地域の方が利用するかもしれないということで運行を継続している。市民に対してバスに乗ってもらうための取組を積極的に実施しているとは言えないのではないかと。現状、65 歳以上の方は免許返納をしないと特典が無いということだが、免許返納の有無にかかわらず、65 歳以上の方は無料にすることや、孫と一緒に乗ると無料にすることを含めて、利用を促進するための対策を検討してほしい。また、バスを活用してもらうには周知が必要ということならば、しつこいくらいチラシ等を配布し周知したらいいのではないかと。

○事務局

これまでの協議会では 1 人当たりの収支をマイナス 500 円を目途とする目標を掲げていたが、その達成は難しい。しかし運行を停止するという訳にはいかない。一方で空のバスを運行させることは問題であるという認識も持っている。そのため、今後、地域公共交通計画の策定に向け第 2 次網形成計画の検証を踏まえながら運行事業者や協議会作業部会の方々としっかり検討していきたい。併せて、周知についてももしっかり考えていきたい。

○浅野委員

バスに関してはコロナの前から 1 人当たりの収支はマイナスであり、コロナを経てさらに落ち込んだが現在は多少回復してきている。よって今後さらに利用者を増加させるためには割引の対象者や内容をしっかりと周知していくべきである。

空のバスを走らせている認識を持っているのはコロナになる前からであると思うが、早急に何らかの手を打つ必要があるだろう。利用してもらうことは非常に大事であるため、そのための進め方を考えてほしい。

○下石委員

採算を取るために必要な利用者数を周知し、利用促進のためのイベントを開催するなどにより、市民に公共交通を利用することを意識してもらう必要があるのではないかと。併せて、公共交通を利用しないと状況が変わらないことを市民に意識してもらう必要があるだろう。

○事務局

いくら赤字なら許容できるのかは個人によって異なるため、まずは状況をお知らせしていきたい。その上で、割引券等の特典の検討を行っていきたい。

○新庄委員

県や各市町村での公共交通に関する会議では、よくダイヤやルート等について議論されているが、それを実行するだけでなく、利用してもらうことも公共交通には求められると思う。採算ベースにのる利用者数を目指すのは地方の公共交通では難しいが、ひとりでも多くの方々に乗っていただくための活動を事業者も一緒に考えていくべきだと改めて認識した。

前回の会議では、池尻線の福平への延伸については、単に延伸するだけでなく、その効果や成果を確認することが必要との意見があった。池尻線は 4 月 1 日から延伸しているため、現時点では、利用者数の動向を把握しきれていないが、今後、その効果や成果を確認してい

きたい。

○事務局

原田委員からの 2 点の事前に質問をいただいている。

①デマンド利用者の減少理由を把握されているか

②今後の公共交通計画の策定には G T F S データ（経路検索サービスや地図サービスへの情報提供を目的とし、設定された世界標準の公共交通データフォーマット）の活用も含まれるのか

○事務局

①については、前沢、荻生地区は減少している状況だが正確な増減についてははっきりと把握できていないため、事業者に状況を確認するとともに網計画の検証の際に整理していく。

②については、今後の公共交通計画の中でも G T F S データの活用を検討していきたい。

協議事項

(1) 議案第 1 号 令和 4 年度収支決算について（監査報告）

●事務局より、資料 7 に基づき、令和 4 年度収支決算について説明を行った。

●菅野委員より、監査報告を行った。

○川端座長

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、議案第 1 号については議案通りで承認とする。

<拍手承認>

(2) 議案第 2 号 令和 5 年度収支予算（案）について

●事務局より、資料 8 に基づき、令和 5 年度収支予算（案）について説明を行った。

○浅野委員

議案第 2 号、Y K K の負担金の内容、便数、形態について個別に教えてほしい。
地域公共交通計画策定の委託料について内容を教えてほしい。

○事務局

地域公共交通計画策定にかかる委託料の内容は P.23 の 3 番にあたる、現況調査、利用者ニーズ調査、黒部市地域公共交通計画の作成である。現況調査は過去に蓄積されているものもあるが、利用者ニーズ調査、黒部市地域公共交通計画については新規に取り組む内容である。

○川端座長

今回はこれまで実施してきた網形成計画から地域公共交通計画に移行するタイミングであり、計画策定にかかる委託料は、その新しい交通計画の移行のための調査と理解をいただければと思う。

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している全委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

拍手全員ということで議案第 2 号については議案通りで承認とする。

(3) 議案第 3 号 黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について

●事務局より、資料 9 に基づき、黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について説明を行った。

○川端座長

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している全委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

拍手全員ということで議案第 3 号については議案通りで承認とする。

その他

●事務局より、参考資料の説明を行った。

○此川委員

下石委員から乗換えの連携がうまくいってないというご意見があった。連携は大事である。その対応について、どのようにしていくか、お答えいただきたい。

○助野委員

あいの風と地鉄の平行路線があり、同じ駅でつながっている。あいの風線は本数が限られているため富山駅での新幹線や高山線等の乗継ぎ、県西部・東部からの列車への乗継ぎを考慮しダイヤ編成を実施しているが、今後どのようなことができるかを地鉄と協議しながら進

めていきたい。

○新庄委員

それぞれの鉄道線が異なった接続を意識しダイヤ設定をしているため、接続の改善が難しい。100 点満点のダイヤ改善ができないことはご理解いただきたい。

○武隈会長

運転免許自主返納制度については返納時に一度説明をする体制としているが、再度状況を確認した上で周知が徹底されるよう担当部署に確認を行う。

なお、広報くろべは月々のテーマが限られており、交通に関して大きく取り上げるのは紙面の関係で難しいため、別紙面にするなどのことを考えていきたい。

福平までの延伸や内山・音沢地区での実証実験については、予算化の際に地区と協議するほか予算案提出後も自治振興会長にも伝達している。新しい路線ができて利用がなければ意味がないため、利用促進に向けて、機会を捉えて周知しているところである。

公共交通の利用を増やし収支をプラスにすることは難しい。このため交通の直接の収支以外の事象も併せて交通の収支を見ていく必要があると思う。例えば高齢者が外出して健康寿命が 1 日でも伸びれば費用がかからなくなる話もある。出かけて元気になる、医療費・介護費が抑制されるという観点も含めて考えていく必要がある。

公共交通の黒字化は難しいが、より活用される公共交通としていきたい。

閉会（事務局）

●大上戸副会長

川端座長には、円滑な議事運営をいただき感謝申し上げます。

今年度は地域公共交通計画となっていくことにより、よりよい計画となることを期待している。引き続き各立場から公共交通の利用促進、維持、発展にご意見を賜りますよう、よろしくお願ひしたい。

●事務局

以上をもって第 39 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会とします。本日は、誠にありがとうございました。

以 上